

VI 調布なないろ保育園

第1 基本方針及び経営目標

本園が平成20年10月1日に開園してから、本年度で10年目を迎えようとしている。開園してから今日に至るまで、東京都の待機児童解消に向けた保育サービスの拡充により、「量の確保」「質の向上」を鑑みた保育の在り様が問われてきた。

本年度も、常に「子どもにとって最善の利益」を追求し、一家庭ごとのニーズを把握して、保護者と子どもの成長や課題をその都度確認し、力強い子どもの成長を育んでいく。

近年では、保育内容も充実してきて、保育課程に沿った保育運営が展開されているが、本年度は、職員の個性や得意とする分野を更に生かして、各年齢に合わせた保育活動を実施していく。特に、保育の分野に埋もれがちであった「食育」を浮き立たせ、「保育」と「食育」とが園運営の両車輪になるような取り組みを実施する。その経験から、子ども自らが「よく遊び、よく食べ、よく眠る」等の生きる力を獲得していくと共に、職種を超えた職員の専門性や向上心を更にかき立てていく。

また、園内、地域を問わず、各家庭に合わせた保護者支援も丁寧を実施する。昨年度、「子どもの育て方がわからない」「夫婦のコミュニケーションがとれない」等、子育てに対する深刻な悩みを抱えている家庭の支援に多くあたってきた。一時保育事業、地域交流事業を実施し、園が地域の子育ての拠点となる活動を積極的に実施していき、孤立しがちな「子育て」を、誠実に応援していく。

これらのことを実践していくうえで、「働きやすい、やりがいのある職場」作りは必須である。小さなことでも相談しやすい風通しの良い職場環境をリーダー層が率先して構築していく。同時に、働き方を工夫し、時間内で仕事を終えられるような人的職場環境の改善や、休憩時間の確保、年次有給休暇の取得率の向上など、職員が日々笑顔で働ける職場作りを実践していく。

第2 保育目標

法人の経営理念及び保育方針を踏まえ、次の4点を保育目標に設定し、乳幼児が心身ともに健やかに育つように援助していくとともに、地域の多様化した子育てのニーズに対応していく。

- (1) 素直で思いやりのある子
- (2) 健康でよく遊ぶ子
- (3) 自分で考え行動できる子
- (4) 感動する心を持ち豊かに表現できる子

第3 重点事項

保育目標から、乳児クラスでは「健康でよく遊ぶ子」を、幼児クラスでは「自分で考え行動できる子」を取り上げ、重点事項として取り組んでいく。

また、「楽しく食べる子ども」を育てるために、計画的な食育活動を実施する。

1 乳児クラス（健康でよく遊ぶ子）

(1) 自己肯定感を育てる「受容される心地よさ」

子どもが表現した気持ちや言葉を受け止め、話を丁寧に聞いたり、スキンシップを図ったりすることで、愛情を充分に感じられる経験を積み重ねていく。

また、できたことや頑張りを認めたり、感謝の気持ちを伝えたりすることで大人との信頼関係を構築し、自信を持てるようにする。

(2) 正しい生活リズムを身に付ける

保護者と、日々のコミュニケーションの中や、保護者会、クラス懇談会、クラス日より等を通じて生活リズムの大切さを伝え、家庭と協力しながら規則正しい生活リズムを身に付け、安定した生活を送る。

(3) 運動機能を伸ばす

著しく発達していく乳児期に、リズム遊びや戸外遊びを積極的に取り入れていく。

また、個々の発達段階に合わせ、週案の中でねらいを明確に立て、計画的に基本的な運動機能の発達を促す。

2 幼児クラス（自分で考え行動できる子）

(1) 自己肯定感を育む「かけがえのない自分づくり」

自己肯定感を養うことは、保育の土台、自立の土台、将来的な人間形成の土台となる。幼児クラスでは、昨年度から重点項目に取り上げ、保育士が子どものありのままの姿を受容し、信頼関係を築いてきた中で「頑張ってみよう」「挑戦してみよう」という主体的な気持ちを培い、様々な生活経験や遊びに取り組めるように育ててきた。その積み重ねから将来に渡って必要となる自立や自信を持ち、成長していく子ども達の変化を実感してきた。今年度も引き続き「自己肯定感」を育む事に重点を置き、幼児部会等で成長の経過報告やケース会議の実施、情報交換や保育実践の振り返りを行いながら、子ども一人ひとりの成長を助長していく。

(2) 規範意識の芽生えを培う

人と人とが尊重し合い、協調して社会生活を営んでいくためには、守らなくてはならない社会の決まりがある。幼児期では様々な人からの思いやりや優しさに触れる中で規範意識の芽生えを培っていく。具体的には「保育士や友達との信頼関係を築く」「基本的な生活習慣を身に付ける」「自分の気持ちを調整する」ことに留意して取り組み、保育園の集団生活の中で様々なルールがあるこ

とや、ルールを守りながら考え行動することの大切さに気付かせていく。

3 食育への取組

食事は空腹を満たすだけでなく、人間的な信頼関係の基礎を作る営みでもある。子どもが身近な大人からの援助を受けながら、他の子どもとの関わりを通して、豊かな食の体験を積み重ねていく。

また、楽しく食べる体験を通して食への関心を育み、食物を育てたり、調理保育を行ったりしながら食を営む力の基礎を培っていく。